

1. 調査概要

風景に関する市民意識を把握するため、市内在住の15歳以上の1,500人を無作為に抽出し市民アンケートを実施しました。その調査結果の概要は以下のとおりです。

【表-1 調査概要】

項目	調査内容・方法
調査対象	15歳以上の津島市在住者1,500人(無作為抽出)
調査時期	令和5年12月11日(月)~25日(月)
調査方法	郵送による配布、回収は郵送・WEB ※別途市公式LINEにて案内
回収数(回収率)	431票(28.7%) ※別途市公式LINEから58票の回答あり 計489票

2. 調査結果

年齢や地域といった属性で景観意識が異なることから、主要な項目について属性別でアンケート結果を集計し、分析した。

(1) 「関心度」×「好感度」

景観に対する関心や興味、好感度といった意識がどのようになっているかを把握するため、「関心度」と「好感度」で集計しました。(図-1)

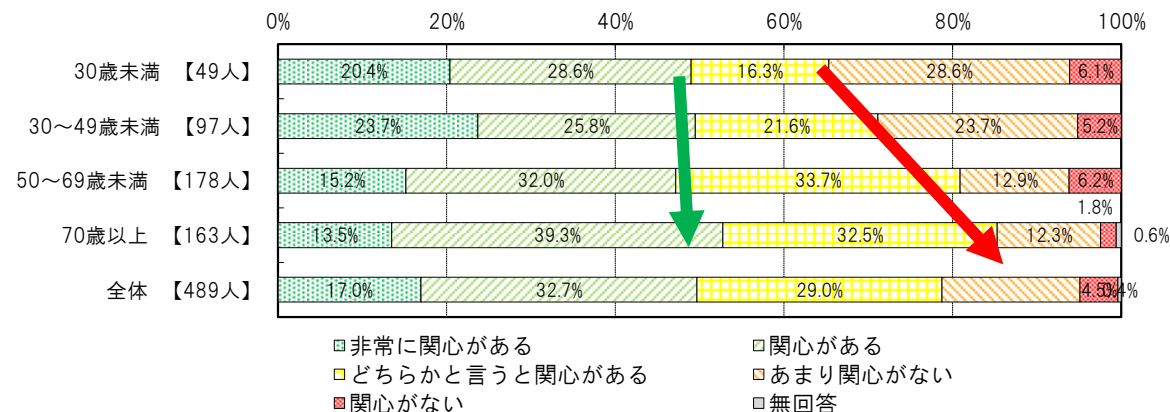
全体的に関心度、好感度ともに意識が高い傾向にあり、**景観施策に対するニーズが高い**ことがわかりました。

関心度	好感度					回答数
	非常に好きだ	好きだ	どちらかと言う好きだ	あまり好きじゃない	嫌いだ	
非常に関心	4%	7%	4%	2%	0%	83
関心がある	1%	17%	11%	3%	0%	160
どちらかと言うと関心	0%	5%	19%	5%	0%	141
あまり関心がない	0%	1%	6%	8%	1%	80
関心がない	0%	0%	2%	1%	1%	22
回答数	24	149	202	97	14	486

【図-1 景観意識の傾向】

(2) 「関心度」×「年齢」

景観に対する関心度が年齢によって異なるかを把握するため、「関心度」と「年齢」で集計しました。(図-2) その結果、30歳未満の年代が若い世代ほど「関心がない」の割合が多くなり、関心度が低いことがわかりました。一方で、全体的にも約半数の方が「関心がある」など、世代共通として景観に対する**関心度がある**ことがわかりました。

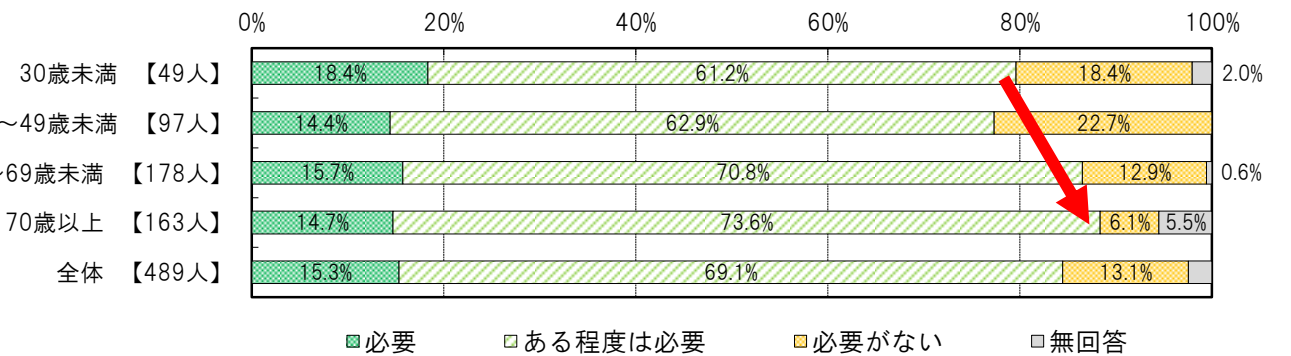


【図-2 関心度】 ※ χ^2 検定:年齢によって関心度に違い有り

(3) 「ルール必要性」×「年齢」

景観計画を策定するにあたり、まちなみのルールづくりが必要となります。年齢によってその必要性が異なるかを把握するため、「ルールの必要性」と「年齢」で集計しました。(図-3)

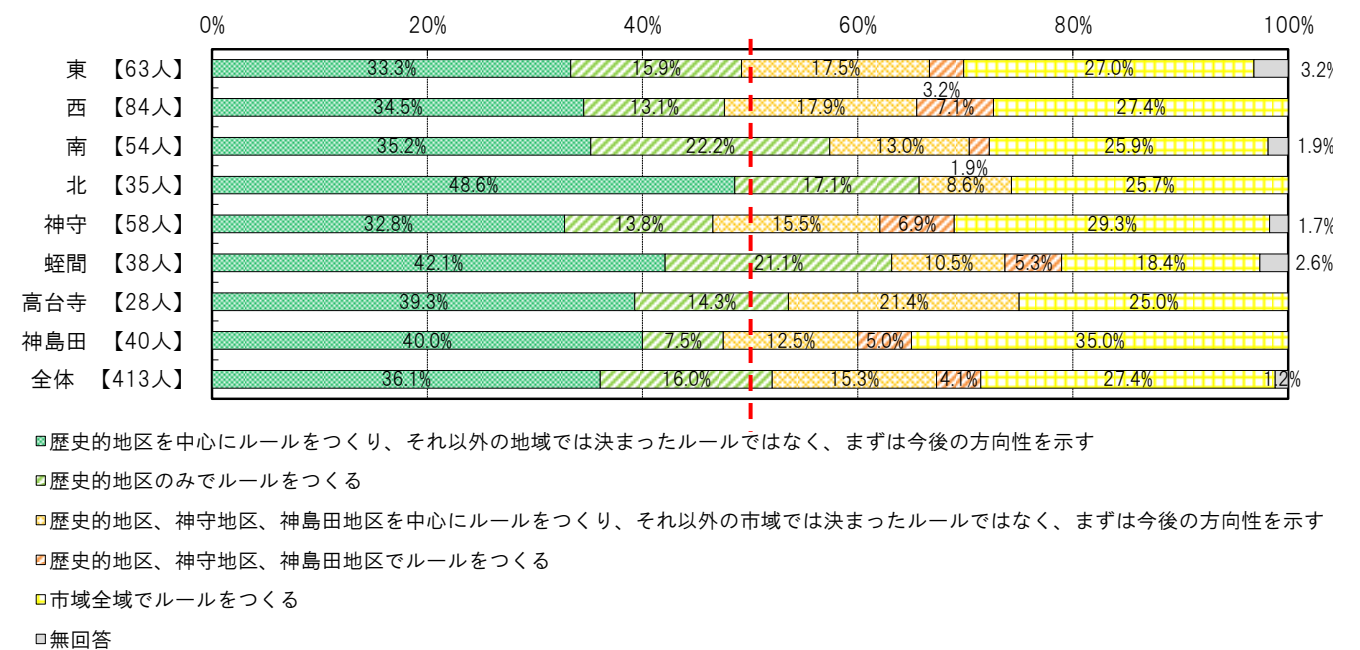
世代全体においても、「必要」や「ある程度は必要」の回答割合が約77%と高い結果となりました。特に50歳以上の年齢で高く、**まちなみ保全に対する意識の高さ**が見られたところです。



【図-3 ルールの必要性】 ※ χ^2 検定:年齢によって必要性に違い有り

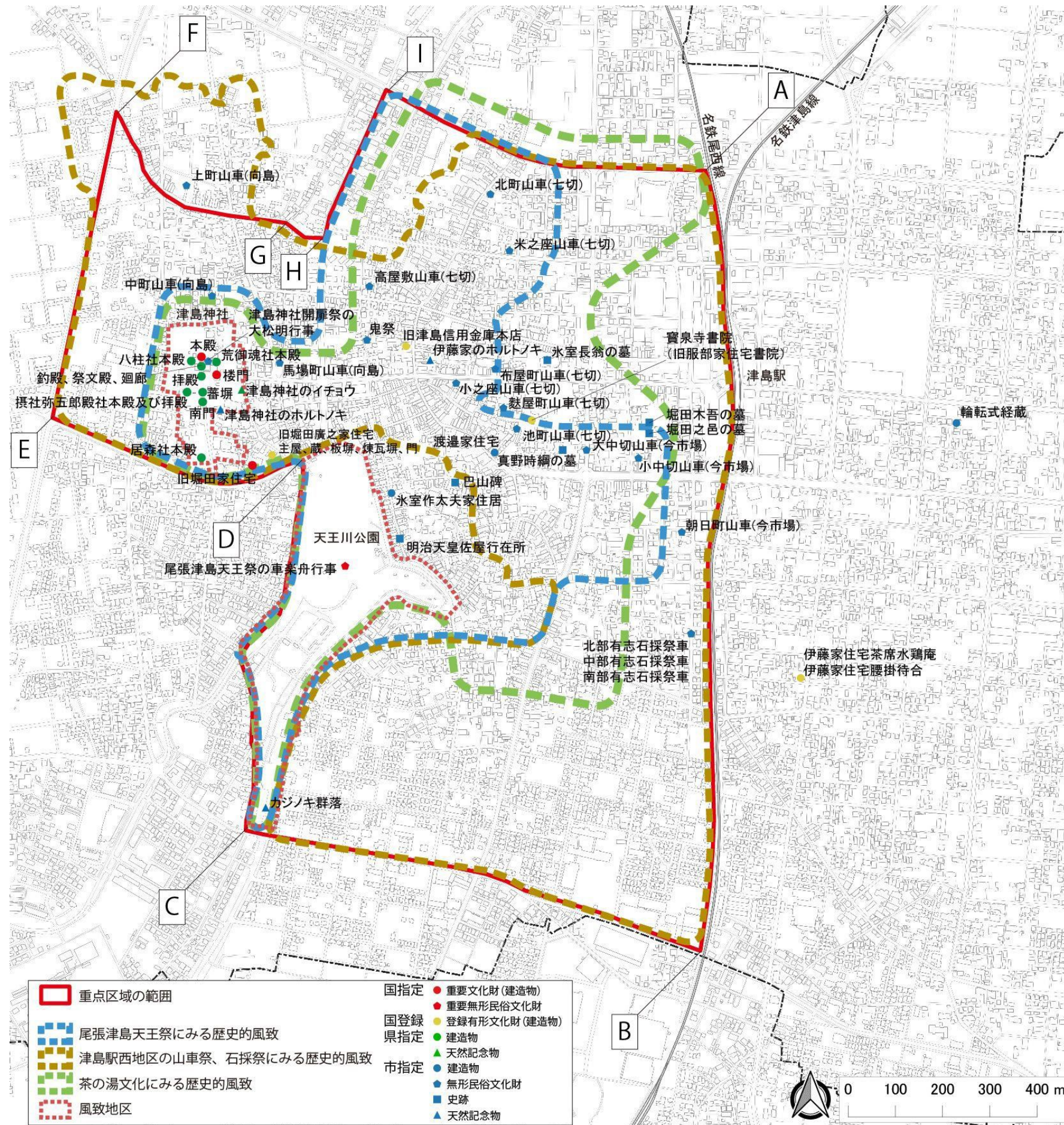
(4) 「ルールの区域」×「居住地」

ルールの対象とする区域に関して、居住地ごとの考え方を比較するため、「ルールの区域」と「居住地」で集計しました。(図-4) どの居住地においても、市域全域でルールづくりではなく、**歴史的要素が多く残る、かつての街道となる東海道筋(本町筋、神守町)周辺の一部区域とし、それ以外の区域は景観の方向性を示す**といった考え方が多い結果となりました。こうした歴史的な景観要素が多く残る「**歴史的地区(裏面参照)**においてルールをつくる」を選択した回答割合は各小学校区とも約半数を占める結果となり**市民にとって歴史的地区の景観保全に対する想いが強い**ことがわかりました。



【図-4 ルールの区域】 ※ χ^2 検定:居住地によって区域の考えに違い無し

【歴史的地区:津島市歴史的風致維持向上計画 177ha】



区域界	道路等の内容
A~B	名古屋鉄道尾西線西側境界
B~C	県道津島蟹江線の道路中心線
C~D	天王川公園境界
D~E	県道名古屋津島線の道路中心線
E~F	国道 155 号の道路中心線
F~G	市道江川城山 1 号線の道路中心線
G~H	新堀川の中心線
H~I	市道橋詰見越線の道路中心線
I~A	県道津島南濃線の道路中心線

備考

重点区域は、名古屋鉄道(名鉄)尾西線、県道津島南濃線、県道津島蟹江線、天王川公園、県道名古屋津島線、国道 155 号、市道江川城山 1 号線、新堀川、市道橋詰見越線で囲まれた範囲とする。